

JINイノベーションマネジメントフォーラムに登壇

2019年10月16日(水)、イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の国際規格が発行されたことを記念し、この規格作りに当初より参画してきた一般社団法人Japan Innovation Network(JIN)が、同規格の策定に携わった米、スウェーデン代表を招いて日本橋ホールにてフォーラムを開催しました。

本フォーラムにOKIの横田CINOに登壇し、OKIのイノベーションマネジメントシステムYume Proへの取り組みを紹介しました。300名収容の会場が、企業経営者、企業内イノベーション推進責任者でほぼ満席となり、関心の高さを感じました。



JINイノベーションマネジメントフォーラムに登壇する横田CINO

Yumeハブ合宿開催

2019年度は、2018年度の取り組みのレビューを踏まえて、Yume Proに関するグループ内の認知と理解を一層高めるため、経営トップによる「Yume Proフォーラム」を各地で開催し、約1,000名の社員が参加する予定になっています。

また、部門ごとにイノベーションのエバンジェリストを育成する「Yumeハブ」を開始しています。

2019年10月4～5日にホテルフクラシア晴海において、Yumeハブ・メンバーとイノベーション推進部、IoTビジネス開発室、IoT-AP推進部、研究開発センタが合宿を行いました。川崎会長から、OKIグループとして何故Yume Proに取り組むのか、トップマネジメントのビジョンと戦略に関するプレゼンを踏まえ、Yume Proをグループ内に広め、どのように定着させていくかについて討議しました。



Yumeハブ合宿にて川崎会長を囲んで

OKI 沖電気工業株式会社

お問い合わせ先

経営基盤本部 イノベーション推進部

〒105-8460 東京都港区虎ノ門1-7-12(虎ノ門ファーストガーデン)

電話:03-3501-3821 https://www.oki.com/jp/yume_pro/

Yume Pro News



Vol.3-3 2019. November

https://www.oki.com/jp/yume_pro/

OKIプレミアムフェア2019にYume Pro成果を出展

Yume Pro成果発表

2019年11月14日(木)から2日間ウエスティンホテル東京にて実施したOKIプレミアムフェアにおいて、OKIのイノベーションマネジメントシステム「Yume Pro」に基づいて推進してきた各テーマの成果を出展しました。フェアにて3日間で3,000人以上のお客様にご参加いただきました。多くのお客様に当ブースに足



OKIプレミアムフェア2019入口でお客様を迎える鎌上社長(中央)、星副社長(右)、宮澤常務(左)

をお運び頂き、SDGs、社会課題からバックキャストしたエンドユーザの課題解決に、各テーマがどう取り組んでいるかについてメンバーからの説明を熱心にお聞き頂き、多くの有意義な質問、コメントを頂きました。当フェアで得られたお客様のご意見をもとに、各ソリューションの具体化を進めてまいります。

行動変容システムで実現する生活習慣病予防

ヘルスケア分野では、社会課題であるメタボや糖尿病といった生活習慣病の予防に貢献するため行動変容サービスの社会実装を目指し、日常生活から得られる行動データの収集と分析、行動変容の仕組み作りへ



OKIプレミアムフェア2019のヘルスケアコーナー

の取り組みを紹介しました。日常生活から取得できる個人の情報を基に、専門家の知見を掛け合わせて個人に適したアドバイスをリアルタイムに提供し行動変容を促す技術、プロンプトのデモも展示しました。リアルタイムな行動介入に対して「嫌だなあ」というリアルな個人としてのリアクションも見られましたが、ヘルスケアの取り組みについて、ご来場者様から「面白い!これはいい!」というお言葉をいただきました。ご来場者様のご意見を基に健康的な行動変容サービスの社会実装を目指します。

物流サプライチェーンの課題解決

物流におけるサプライチェーンの課題である個々のデータが連携できていない点について、OKIの強みである様々なシステムを繋ぐ技術で物流事務を効率化させ、最適なサプライチェーン構築の実現を目指す取り組みを紹介しました。多くの荷主様、物流関連のお客様から、こういった課題に同意頂き、取り組みの一例に対して、これは是非利用したい、という声を頂きました。



OKIプレミアムフェア2019の物流コーナー

漁業サプライチェーン・ソリューション

漁獲量の激減という社会課題解決のため、資源の保護と漁業収益の最大化とをめざしたソリューションを紹介しました。OKIの持つ水中音響技術と、共創パートナー様の市場の情報や流通のノウハウを組み合わせ、これまでの漁業サプライチェーンを抜本から変えることで、これらの課題解決を行うソリューションに対し、今までのOKIにない一面を見たというご意見と多数頂きました。またこのブースと連携した共創パートナー様（フーディソン社）との共創セッションも多くのお客様にご参加頂きました。



OKIプレミアムフェア2019の海洋コーナー

Yume Proチャレンジ大賞「AIエッジロボット」をCEATECに出展

人手不足業界の省力化を目指す

2019年4月に行われた社内アイデアコンテスト「Yume Proチャレンジ2018」で大賞を獲得したAIエッジロボット。日々、深刻化する人手不足という社会課題を解決するソリューションを、受賞後5か月で試作し、CEATECに出展しました。

このアイデアの原点は、共創パートナーの施設点検、防犯・見守り、倉庫の在庫チェックといった分野の人手不足が解消できないかという出発点でした。そこで出てきたのが、ロボットと人間の協調作業により、人間一人で複数のロボットを遠隔操作することで省人化に貢献するアイデアです。そのためには、人間では見逃しがちなポイントをロボットにより監視し、ロボットでは対応が難しいきめ細かな作業を人間が行う必要があります。

このようなニーズに対応するため、OKIのAIエッジロボットは、管理対象の施設を360度自由視点でリアルタイムに俯瞰できるAI機能を搭載。自律的に広範囲な施設の監視を可能とし、ロボット単独では作業が難しい状況ではオペレーターが遠隔でロボットを制御することで高度な対応とします。

CEATECでは多くの方から、コンセプトに賛同を頂きました。今後、施設管理、防犯見守り、物流等の分野で共創活動を進めていきます。



CEATEC2019でのAIエッジロボット展示

経済産業省 行動指針を発表

ISO 56002の採択を受けて、経済産業省は、企業向けガイダンス「日本企業における価値創造マネジメントに関する行動指針」を2019年10月に発表しました。この行動指針策定に際して、OKIの川崎会長は、経済産業省のイノベーション100委員会に招かれ、Yume Proを主導している経験を踏まえて提言を行いました。

川崎会長発言を紹介

行動指針の中で川崎会長の以下の発言が紹介されました。

「市場そのものが変わるので、CEOそのものが変わらなければ決して守護神にはなれない。やはりものすごく熱い思いを持っている。神ですから、ある意味では。守護神としてリードする場面もあれば、大きな懷で守る場面もある。」

「ただ2階建てにすればいい訳ではない。経営者が先頭に立って全社教育を行い、理解を浸透させて1階のリソースで2階を支援する体制を作ることが必須だ。」

「お客様とお互いのSDGsへの取り組みを話し合う。お互いの課題を共有し、協力して解決しようという現場での地道な対話が、事業機会にもつながっていく。」



イノベーション100委員会でのコニカミノルタ山名社長（左）とOKI川崎会長

企業の挑戦事例としてYumeProを紹介

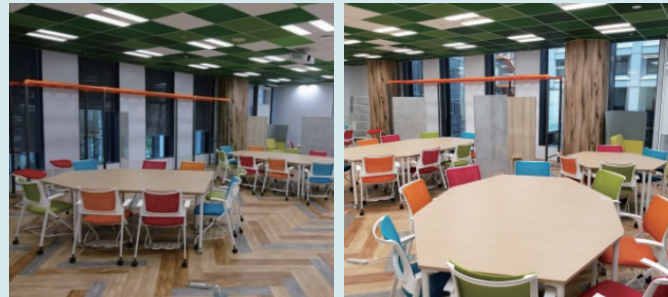
「ISO 56002を先取りしたイノベーション・マネジメントシステム「Yume Pro」を立ち上げ」、Yume Proプロセスでのイノベーション創出活動や千人研修などに取り組んでいることが紹介されています。

■経済産業省 日本企業における価値創造マネジメントに関する行動指針 (PDF形式: 2,335KB)
<https://www.meti.go.jp/press/2019/10/20191004003/20191004003-1.pdf>

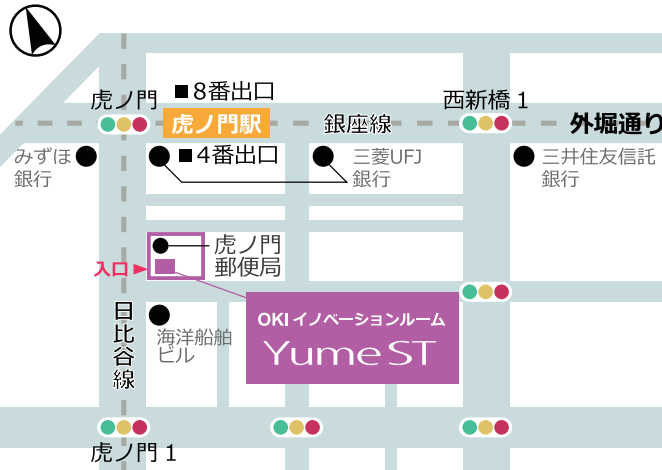


YumeST(夢スタ)のご案内

OKIのイノベーション活性化の拠点として、OKIショールームに隣接する場所にイノベーションルーム「YumeST(夢スタ)」を開設しています。ぜひお立ち寄りください。



イノベーションルーム Yume ST(夢スタ) OKI虎ノ門本社2階



東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 虎ノ門ファーストガーデン2階